

令和5年度 ふじみ野市立鶴ヶ丘小学校 学校経営構想

1 学校経営理念【学校の使命】

未来を創造的に生きる人材の育成

～人生100年時代を力強く前向きに生き抜くための人格形成～

2 学校教育目標

やさしく かしこく たくましく



3 目指す学校像 「一人一人の子供のよさや可能性を導く鶴ヶ丘小学校」

すべての子どもは（どんな子どもでも）元々「できるようにになりたい」「がんばりたい」「伸びたい」と願っているものです。その願いを叶えるためには「大人の適切な関わり」が重要です。子どもの小さな努力も見逃さず「認める」「褒める」ことを意識し、子どもの意欲を喚起していく学校を目指します。子どもの意欲は大人の想像を遙かに超えた成長につながります。

小さな種にはたくさんの養分がつまっています。目には見えなくても土の中で芽が出るその時を待っています。時に見守り、時に水や肥料を与えながら、子ども達の成長を楽しみましょう。

4 目指す子供像

- 自分と相手を大切にすること
- 気づき、考え、進んで活動すること
- 心も体もたくましいこと

5 目指す教職員像 「時々の初心を大切にし、人間力を高めようとする教職員」

人生のどのタイミングでも「その年頃ならでは」の初心が常にあります。「初心」の内容はどんどん変化していくものですが、その都度、心に留めて、私も含め、働くことを通して自分自身の人格を磨いていきたいものです。

- (1) 自分を大切にし、自己コントロールできる教職員
- (2) チーム鶴ヶ丘の一員として積極的に学校経営に参画しようとする教職員
- (3) 子ども思いや願いを理解しようと努力する教職員
- (4) わかる・楽しい授業づくりのために挑戦する教師
- (5) 保護者の方や地域の方の心に寄り添おうとする教職員

「学校には先生がいる 友達がいる 自分の居場所がある」

本校には、様々な課題を抱える子供たちが多数います。子供たち自身に要因があり、問題が発生する場合もありますが、複雑な家庭環境や成育歴、障害等、本人の力ではどうすることもできないことが要因となっている場合もあります。問題解決のために学校ができることは限られているかもしれません。

しかし、私達は一人一人の個性を理解し、自己有用感（自分は人に必要とされている 役に立っている）を高めようと努めることはできます。子供たち自身に成長が感じられるような「あたたかな居場所」を作ることはできるはずです。一人一人の子供たちに安心感を持たせ、一人一人が元々持っている意欲を喚起することは、配慮を要する子供たちを支えるだけでなく、すべての子供たちの豊かな心を育て、学力を伸ばし、心と体の健康を増進することにもつながると考えます。

◆（子供・保護者からの）信頼を得る

- ・ わかる授業を毎日積み重ねる
- ・ 子供の（保護者の）困っていることや頑張っていること、いつもと違うこと等、些細な変化にも気づけるようアンテナを高く持ち、より正しい子供理解（保護者理解）に努める

◆（子供・保護者と）共感する

- ・ まずは子供の（保護者の）立場に立って話に耳を傾け受け止める
- ・ すべての子供たちと（保護者と）共に考え、共に喜ぶことを積み重ねる

◆（子供・保護者に）感動を与える

- ・ できることを見出し子供の実態に合わせた具体的な実践を積み重ねる
- ・ 子供の学びや成長を子供自身に（保護者に）わかりやすく伝える



7 今年度の重点・努力点

(1) 豊かな心育ての推進

① 学級経営力の向上

○自己有用感を高める取組の推進

- ・一人一人のよさや努力が伝わる教室環境づくりに努める（物的環境）
- ・一人一人のよさや努力が認められるあたたかい雰囲気づくりに努める（人的環境）

○「話し合いのできる学級づくり」の推進

- ・一人一人の違いを認め合い、高め合うことの心地よさを味わえるよう支援する

② 異学年交流の積極的な推進

○縦割り活動の充実

- ・様々な形態の工夫により「なかよしタイム」の充実を図る
- ・異学年による教え合い・学び合いを通じた交流学习の充実を図る

③ 心つなぎの推進

○挨拶の習慣化

- ・いつでも、どこでも、誰とでも笑顔で挨拶ができるよう教職員がお手本となる

④ 道徳教育の充実

○考え議論する道徳の授業実践

- ・道徳科の質的転換に向け、多様な指導法を取り入れた授業展開を図る

○美しくあたたかい環境づくりの推進

- ・四季を通じた花壇の整備や掲示物、子どもの努力が伝わる学校環境づくりに努める

(2) 学びの改革の推進

①基本的な授業展開の確実な実施

○「鶴ヶ丘小学校 授業づくり7つの視点」の推進

○読書活動の充実を図る

○PDCAサイクルに基づいた指導法の工夫改善

- ・埼玉県学力・学習状況調査等の各種学力調査の結果を活用し具体的な指導法の改善に努める

②新しい教育課題に立った授業づくり（主体的・対話的で深い学び）の推進

○個別最適化された学び及び協働的な学びの充実

- ・指導の個別化と学習の個性化を図る
- ・他学級、他学年、他校等と共に学ぶ機会を設定しより質の高い学びを生み出す

○GIGA スクール構想の実現の充実

○保護者や地域、行政、企業等の教育力の開拓

（外国語教育、主権者教育、消費者教育、伝統や文化に関する教育、プログラミング教育等）

○発達段階に応じた様々な体験活動の推進

- ・体験を通じた環境教育、郷土学習の充実を図る

○特別支援教育の充実

- ・適切なアセスメントにより、一人一人の児童の強みを生かした学びの方法を展開する
- ・特別な配慮を要する子どもへのチームアプローチを徹底する

(3) 心と体の健康を育む教育の推進

- ①体育授業、体育的活動の充実
 - ・新体力テストの結果を生かした体育活動の充実を図る。
(体育朝会、運動の習慣化、外遊びの奨励)
- ②学校保健教育の充実
 - ・養護教諭と連携・協働した保健学習の充実を図る。
 - ・学校保健、家庭と連携した虫歯予防・治療の啓発を図る
- ③食に関する指導の充実
 - ・ゲストティーチャーによる食育授業の展開を推進する

(4) 安心・安全な学校づくりの推進

- ①危機対応能力の向上
 - ・コロナウィルス感染症、不審者、自然災害、食物アレルギー等の命に関わる内容への危機意識向上を図り、確実な対応を推進する。
- ②安全(防災、防犯)教育の充実
 - ・施設・設備の安全点検の充実を図る。(子供の目線に立った安全点検の徹底)
 - ・交通安全指導、防災訓練、防犯教室、非行防止教室、薬物乱用防止の充実を図る。
 - ・保護者、地域、行政と連携した交通安全対策の推進を図る。
(PTA 校外委員、子供110番の家、SGリーダー)
- ③安全な大規模改修工事(第2期)の遂行

(5) 子供に寄り添う生徒指導・教育相談の推進

- ①子供の安心感と充実感を高める取組の推進
 - ・日々、カウンセリングマインドを持ち子供たちと接するよう努める。
 - ・配慮を要する子どもや保護者の背景に心を寄せ「共感」することを心がける
 - ・一人一人の子供たちの変化に気づき、必要に応じてチームで早期対応を図る
- ②適切な対応の見極め
 - ・関係職員の連携強化を図る
 - ・目的を明確にした保護者面談を計画的に実施し保護者との連携強化を図る
 - ・教室、保健室、待機室(準備室)等の利用方針に基づいた実践を試みる
- ③関係機関との連携強化
 - ・子育て支援課、警察、児童相談所、市教委、SC、SSW等と積極的な連携に努め、それぞれの役割を明確にした策を講じる

(6) 地域と共に歩む学校づくりの推進

- ①学校運営協議会の充実
 - ・学校の実態、家庭・地域の現状について率直な情報交換を行う
 - ・児童会を活用し子供たちの考えを積極的に発信し学校・家庭・地域三者の絆が深まるような活動を探求する
- ②学校応援団の活性化と組織化
- ③特色ある教育課程の充実を図る。
 - ・保護者、地域(学校応援団)NPO、企業、近隣大学等地域の教育力を活用し効果的な授業の展開を図る。
- ④保護者・地域への積極的な情報発信

- 子どもの成長を保護者にこまめに伝える。
- 学校だより、学年だより、ホームページによる情報発信を図る。

⑤地域連携の推進

- 大井東中学校区（大井東中、亀久保小、鶴ヶ丘小）における連携、幼小連携を積極的に推進する。

(7) 教育活動の質を高める働き方改革の推進

①組織力の向上

- 三役による校務連絡調整会議、企画委員会、学年会、各種部会等の質向上を図り、学校運営機能の推進を図る
- 情報の一元化を徹底し、報告・連絡・相談の成果を発揮する

②業務内容の見直し改善の徹底

- 業務上での問題点について小さなことであっても改善策を協議できる雰囲気づくりに努める
- 会議及び研修内容等について見通しをもちながら業務を遂行し在校時間縮減についての意識向上を図る
- 令和6年度以降を見通した教育課程の編成を行う